

石原明教授著作目録

I 著 書

- 一九八〇年 『刑事政策』（石原・墨谷・前野・森本 共著）
青林書院
- 一九九三年 『資料に見る尊厳死問題』（石原・中山 共編著）
日本評論社
- 一九九四年 『本音で語る 脳死・移植』（中山・福岡 編 石原ほか 八名 共著）
メデイカ出版
- 一九九七年 『医療と法と生命倫理』
日本評論社
- 一九九八年 『法と生命倫理二〇講（初版）』
日本評論社
- 『臓器移植法ハンドブック』（中山・福岡 編 石原ほか 九名 共著）
日本評論社
- 二〇〇〇年 『現代刑事政策』（荒川・石原・土井・藤岡 共著）
青林書院
- 二〇〇一年 『性同一性障害と法律』（石原・大島 共編著）
晃洋書房
- 二〇〇四年 『法と生命倫理二〇講（四版）』
日本評論社
- 二〇〇五年 『法と生命倫理』（石原・甲斐 共著）
メンタルケア協会 慶応大学出版会

II 論 文

- 一九七〇年 注釈・選挙犯罪（三） 同志社法学 一一六号
- 一九七一年 自由刑―開放・社会復帰の準備
中山・藤木・西原・宮沢 監修『刑事政策講座 二卷』
成文堂

一九七二年

別件逮捕

井戸田 編『判例演習講座 六章』世界思想社

身体構造・性格と犯罪

大塚・宮沢 編『演習刑事政策 二章』青林書院

嗜癖と犯罪

大塚 宮沢 編『演習刑事政策 三章』青林書院

一九七四年

懲役と禁錮の区別は維持すべきか

法律時報 七四年六月号

受刑者の法的地位に関するミュラードイツの見解と西ドイツ

ツ行刑立法

一九七五年

逃走及び藏匿の罪―刑法改正の逐条研究

法律時報 七五年四月号

証拠開示・証拠調べ

小野・高田 編『刑事訴訟法の基礎』青林書院

一九七六年

受刑者の法的地位考察の方法論

釈放前処遇

一九七七年

監獄法の改正に望む

被収容者の不服申立制度について

平場先生還暦記念論文集『現代刑事法学(下)』有斐閣

一九七八年

被収容者に関する通則 法律時報 七八年一月号

比較法と日本刑法の特色

中山 編『現代刑法入門』法律文化社

犯罪者処遇の個別化

香川・森下 編『刑事政策を学ぶ』有斐閣

一九七九年

臓器移植と死の判定基準

蒔・中井 編『医療過誤法入門』青林書院

一九八〇年

少年・成人・保護者

重松 編『少年法演習 三章』新有堂

訴訟対象

別冊法学セミナー「刑事訴訟法」
監獄法改正の論点 重松 編『監獄法演習30』新有堂

一九八一年

総則規定について―監獄法改正の検討

法律時報 八一年六月号

一九八二年

西ドイツ―受刑者の社会保険

刑法における占有の意義

中山・西原・藤木・宮沢 編『現代刑法講座4巻』成文堂

人体実験に対するドイツのコントロール体制

神戸学院法学 一三卷一号

性転換に関する西ドイツの法律

神戸学院法学 一三卷二号

一九八三年

医学上の人体実験研究を規制する倫理委員会

神戸学院法学 一四卷一号

注射・予防接種と過失

泉・中山 編『医療事故の刑事判例』成文堂

一九八四年

体外受精の法的視点と課題

ジュリスト 八四年二月一五日号

臓器移植の刑事法的視点(2)

比較法研究 八四年四六号

脳死論に関する一試論

ジュリスト 八四年二月一日号

一九八五年

臓器移植の法的問題

大阪府医師会 編『医事裁判と医療の実際 五章』成文堂

堂

一九八六年

性と生殖に関する法的思考

池田・黒橋 編『性の科学と人間性 七章』晃洋書房

一九八七年

不妊の法律問題

杉本・森 編『不妊診療指針 二三章』同朋社

脳死の問題を考える

一九八八年

新しい行刑への期待 法律のひろば 八八年五月号

わが国の「角膜・腎臓移植法」の検討

一九九〇年

神戸学院法学 一九卷一号

医事犯罪

板倉・田宮 編『ホーンブック刑法各論』北樹出版

末期医療と刑法

一九九一年

臓器移植における承諾論

ジュリスト 九一年一〇月一日号

一九九二年

死の認定と患者の意思

尊厳死への道とその限界 ターミナルケア 二卷一一号

一九九三年

脳死臨調の最終答申の検討

エホバの証人と輸血拒否・被收容者のハンスト 犯罪と刑罰 九号

立命館法学 二二一・二二二合併号

一九九四年

臓器移植と死の認定の基準

蒔・中井 編『医療過誤法』青林書院

生殖医療と法律

森ほか 編『卒後産科婦人科学 一卷』金原出版

一九九五年

法律から見た尊厳死・安楽死

月刊ナースデーター 九五年六月号

一九九七年

進歩する生殖医療とその周辺問題

中山研一先生古稀祝賀論文集 一卷『生命と刑法』成文

堂

一九九八年

エホバの証人と輸血拒否―最近の判例から

京産大法学 三二卷二・三合併号

性転換に関する医と法の対応

井戸田侃先生古稀祝賀論文集『転換期の刑事法学』現代

人文社

一九九九年

死の概念―新臓器移植法擁護論

刑法雑誌 三八卷二号

性同一性障害をめぐる法的諸問題

松下ほか編『臨床精神医学講座S4―摂食障害・性障害』

性同一性障害の法律問題

臨床精神医学 二八卷四号

二〇〇〇年

性同一性障害の社会的側面

V i T a 特集 一七卷一号

生殖医療技術へのニーズと限界

春季増刊号『医学の進歩と医の倫理』医学の世界社

現代の先端医療と刑事法

大野真義先生古稀祝賀論文集『刑事法学の潮流と展望』

二〇〇一年

臓器移植法の見直し

刑法雑誌 四〇卷二号

二〇〇四年

特例法制定の機会に思うこと

南野 監修『性同一性障害者性別取扱特例法』日本加除

出版

二〇〇五年

被害者の保護と支援をめぐる

メンタルケア協会『メンタルケア論2』慶応大学出版会

法と生命倫理―最近の動きから

神戸学院法学 三四卷三号

進展する医療の最近の動向と法的論点

立命館法学 三〇〇号記念号

III 翻 訳

一九六九年

「チエコスロバキアの新行刑法」(石原・中山 共訳)

法学論叢 八四卷五～六号

一九七一年

「ルーマニアの新行刑法」(石原・中山 共訳)

法学論叢 八九卷一号

ジエフェリー「犯罪学の歴史的発展」

中山・宮沢 監修『犯罪学リーディングス 一章』慶応

通信

レフェレンツ「現代犯罪学の課題」

中山・宮沢 監修『犯罪学リーディングス 三章』慶応

通信

一九七二年

「ポーランドの新刑法典」(石原・中山 共訳)

神戸学院法学 三卷一～三号

一九七五年

パウマン「保安と教育的無秩序」

同志社法学 一八四号

一九七六年

ホーマイヤー「組織としての刑事施設」

中山・宮沢 共訳編『行刑改革の諸問題』成文堂

一九八三年

ヒルシュ「同意と自己決定」

神戸学院法学 一四卷三号

一九八六年

ホウイスト「国際犯罪学会 一二章～一七章」

中山 監修『比較犯罪学』成文堂

一九八七年

ヒルシュ「西ドイツにおける妊娠中絶規定の改正」

福田・宮沢 編『ドイツ刑法学の現代的展開』成文堂

ヒルシュ「治療中止と安楽死」

福田・宮沢 編『ドイツ刑法学の現代的展開』成文堂

二〇〇一年

ヒルシュ「専断的治療行為」

神戸学院法学 三〇卷四号

IV 判例評釈

一九六七七年

殺人未遂罪と誤想過剰防衛

一九六八年

他人の行為を介入と因果関係の否定

法学論叢 八三卷四号

一九七〇年

訴訟詐欺事件

判例タイムズ 二五三三号

一九七四年

誣告・職権濫用・賄賂

大谷・西原 編『刑法二〇〇題』有斐閣

一九七五年

中止犯

別冊法学セミナー判例刑法I

放火・往来妨害・浄水汚穢

別冊法学セミナー判例刑法II

一九七八年

受刑者の頭髮丸刈りの強制

菊田 編『判例刑事政策演習―矯正処遇編 23』新有堂

堂

独居拘禁

菊田 編『判例刑事政策演習―矯正処遇編 4』新有堂

一九八〇年

戻し収容と期限経過

菊田 編『判例刑事政策演習―少年法編 32』新有堂

戻し収容と抗告 菊田 編『判例刑事政策演習 18』

一九八七年

詐欺罪又は窃盗罪と二項強盗殺人未遂罪との包括一罪

ジュリスト重要判例解説(昭和六一)

一九八八年

虫垂炎手術による腸壁切除事件

ジュリスト別冊 一〇二号

V 紹 介

一九六八年

レフェレンツ「現代刑事学の課題」

判例タイムズ 二二七号

一九七〇年

シュトラーターテンベルト「死の法概念について」

法学論叢 八七卷二号

クレプス「保安拘禁執行の実際から」

神戸学院法学 一卷一号

一九七一年

ボツケルマン「リストと刑法総則の刑事政策的思想」

立命館法学 九七号

一九八一年

イタリアの罰金刑

法学論叢 九六卷四号

西ドイツ性転換法の年齢制限に対する違憲判決

神戸学院法学 一三卷三号

一九八五年

シュライバー「将来の臓器移植法のための予備的考察」

龍谷法学 一八卷三号

一九九〇年

植物状態患者に関するヘスティングセンターレポート特集

論文

神戸学院法学 二〇卷三・四合併号

一九九一年

植物状態患者に関する論文二題

神戸学院法学 二二卷一号

一九九三年

ウエリ―「医学特例・医師と安楽死とオランダ刑法」

神戸学院法学 二三卷二号

一九九五年

ベル・スタンゲランド「安楽死―スペインの場合」

神戸学院法学 二五卷四号

一九九六年

ニコラス・クローエーツ「スイスにおける安楽死の法的・

倫理的問題」

神戸学院法学 二六卷一号